

撓み角法の基本式の誘導

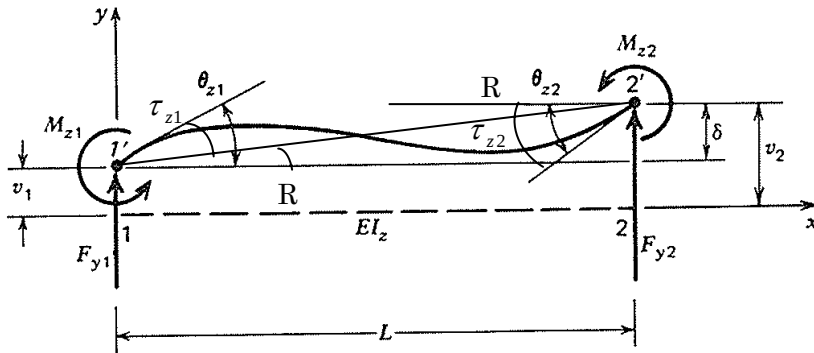
以下に、中間荷重が作用しない場合の撓み角法の基本式を誘導する。この基本式は、弾性条件下で材端モーメントを節点角（撓み角）を用いて表した式である。

用語の定義

節点角： θ ～ 変形前部材軸に対する変形後部材の接線のなす角度

接線角： τ ～ 変形後部材軸に対する変形後部材の接線のなす角度

部材角： R ～ 変形前部材軸に対する変形後部材軸のなす角度



図－ 1

A) 材の両端にモーメントが働く場合

これは、例題 7 の(a)図と(b)図が重ね合わされた場合に相当するので、

$$\theta_{z1} = \theta_{z1,a} + \theta_{z1,b} = \frac{M_{z1}L}{3EI_z} - \frac{M_{z2}L}{6EI_z} = \frac{L}{6EI_z}(2M_{z1} - M_{z2})$$

$$\theta_{z2} = \theta_{z2,a} + \theta_{z2,b} = -\frac{M_{z1}L}{6EI_z} + \frac{M_{z2}L}{3EI_z} = \frac{L}{6EI_z}(2M_{z2} - M_{z1})$$

B) 部材角が生ずる場合

材端移動があり部材角 R が 0 でない場合には、

$$\theta_{z1} = \tau_{z1} + R$$

$$\theta_{z2} = \tau_{z2} + R$$

この場合の τ_{z1} 、 τ_{z2} は、上の A) の θ_{z1} 、 θ_{z2} に相当する。

$$\therefore \theta_{z1} = \frac{L}{6EI_z}(2M_{z1} - M_{z2}) + R \quad \sim(1)$$

$$\theta_{z2} = \frac{L}{6EI_z}(2M_{z2} - M_{z1}) + R \quad \sim(2)$$

(1),(2)式を変数変換すると、

$$\begin{aligned} \text{撓み角法の基本式：} \quad M_{z1} &= \frac{2EI_z}{L}(2\theta_{z1} + \theta_{z2} - 3R) \\ M_{z2} &= \frac{2EI_z}{L}(\theta_{z1} + 2\theta_{z2} - 3R) \end{aligned}$$